

中国の強硬姿勢は弱さの表れ

フィナンシャルタイムズ 2010年9月27日

ジョナサン・ホルスラグ

ブラッセル現代研究機構 研究員

中国は発展するに連れて、今の繁栄が中庸と謙虚さによって成し遂げられてきたことを忘れてきているようだ、

中国と日本の先週の中国漁船船長の逮捕をめぐる対立は、力が高慢さをもたらすとの印象を強める結果となった。日本との公的な接触を断ち、日ごろ温厚な温家宝首相は日本に深刻な結果を招くと警告した。

日本は賠償の要求を拒み、日本が損害の賠償を求めた。しかしナショナリズムの爆発に押されて中国では専門家、ジャーナリスト、ブロガーがこぞって経済制裁、さらには中国の漁船を東シナ海で守るために軍事力を要求している。

中国のこうした強硬な姿勢は強さよりも弱さを示すものといえる。今回の争いは、国境をめぐる紛争が中国の経済的ニーズを反映して燃え上がることを示している。

今回は、黒マグロの減少で中国漁船が紛争の海域へ乗り出したものである。同様に中国のエネルギー需要の増大が東、南シナ海の海底油田での中国の権益を強めている。ここでは2千億バレル以上の埋蔵量がある。

また中国の水資源の急速な減少にともない、ヒマラヤの河川をめぐるインドとの対立が直ぐに強まろうとしている。中国は水資源の分け合いの協定にもかかわらず、ブラフマプトラ川の上流地域でダムや灌漑施設の建設を続けている。

中国の近隣諸国は中国の指導者が人民解放軍を国内、海外の経済的利益の確保に利用しようとしていることを警戒している。

中国の軍事的外交の高まりと海軍力の増強が地域の安定確保のためか、新たな影響力の行使を狙ったものかについて、近隣諸国は注視している。

中国の経済ナショナリズムへの懸念も増している。これは中国が被害者であるとの歴史的な強い意識のうえに育まれてきたものだ。1990年代後半、中国は海外企業への依存が高すぎることを是正するため、保護策の下に強力な国内産業を育てたが、過剰設備と海外の消費への依存の高まりで、国内産業の国際的な競争力を強めるために強硬な貿易政策で支援してきた。

先進国はこれを不公正な競争として捉え、中国をより大きな地域的貿易機構に組み入れることに努めたが、途上国は中国の貿易の横暴さに呑み込まれることを警戒した。

途上国は中国の進出を何とか食い止め、戦略的産業を護り、貿易交渉でも容易に譲らないように決意した。中央アジア諸国は中国との自由貿易地域を拒否し、南東アジア諸国は今年発効する貿易協定でのさらなる譲歩を迫った。中国はますます畏にはまった巨人のように見える。

過去 30 年間、中国は国際社会の一員として指導的な地位を得るよう努めてきた。しかし今日、中国のこうした経済モデルは維持できなくなった。6 年間に及ぶ大胆な声明と実験にもかかわらず、輸出主導と固定設備投資への偏重は高まる一方である。

新疆での反乱、深圳の工場でのストなどは温首相、胡錦濤大統領の協調主義に影を落した。右派の野心的な専制支配と共産党左派の愛国主義に襲われて、リーダーシップが弱まっている。これは温氏と胡氏の妥協する余地を狭め、次世代の指導者が如何に中国のナショナリズムを立て直すかに疑問を抱かせる。

中国の強硬姿勢が表面化するのを見てきたが、こうした事態は中国の国内の変化の難しさを示すものでもある。国内の変化がうまく行かなければ、不安定で危ない愛国主義へ戻ることになるかもしれない。

中国が強硬姿勢を強めれば、他の国々は将来に不安を感じ、強い対応をとる。そうなれば相互の不信が増幅され、穏健な指導者の地位が弱まり、お互いに侵略を警戒し、力による均衡を保つためのグローバルな競争がますますことになる。

中山 隆